





とねり自然図鑑



動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した会員さんのつぶやき】 きれいな色をしたアオサギを見つけたので、飛んでいるところを撮影しようとカメラをかまえました。そして、飛んだ瞬間シャッターを切ると、光に照らされ翼の一部が青く輝いて見えました。



名称：アオサギ
 学名：Ardea cinerea
 体長：88-98cm（翼開張時150-170cm）
 体重：1.2-1.8kg
 分布：北海道（夏）、本州、四国、九州（冬）
 生息：河川、湖、池沼、湿原、水田、干潟
 天敵：ハシブトガラス、アライグマ、ヒグマ

【アオサギと呼ばれる由来】

○この写真では光が当たった角度が良かったのか、羽根が青みがかっているように見えますが、本来アオサギは灰色なのです。

実はアオサギの英名はGrey Heronといって直訳すると灰色の鷺なのです。では、どうして和名だと『アオ』が使われているのでしょうか。アオサギを漢字で書くと蒼鷺となります。この『蒼』の意味の中には灰白色または青みがかった灰色が含まれるため、この名前がついたようです。

目の上の冠羽や首の斑点も良く見ると黒ではなく紺色がかっています。色に繊細な日本人はこの部分を表現するため蒼鷺（アオサギ）と命名したのでしょうか。

日本では鳥の色彩を表現する時の青は、瑠璃色と表現されることが多く、青々と茂った木など緑もまた『アオ』と表現されることがあります。『アオ』だけでも様々な表現があるのも、外国にはない日本の良さではないでしょうか。

【何でも食べちゃう、アオサギ】

○アオサギの主食は魚です。長い首をSの字に縮めて、ゆっくりと獲物に近づき、モリのように一気に首を伸ばして獲物を突き刺し捕えます。

じっと水の中に立ち続けて近づいてくる獲物を待ち続けたり、ゆっくりと歩いて水中にいる動きの鈍い魚を狙ったりしています。時には、呑み込めないくらいの魚を捕えてしまうことも。

とにかく動いているものを見るとくわえてしまうようで、エビやカニの甲殻類、昆虫や動物まで捕えてしまったりもするようです。中にはヘビやカエルまで飲み込んでしまうそうです。

アオサギの特徴の1つは大きく開く口です。なので、とりあえず動くものはなんでもかんでも捕えてみて、呑み込めるか呑み込めないかはあとで判断しているのかもしれないですね。

『舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓』

『死ぬまでに見たい！絶景の鳥』 エクスナレッジ

叶内拓哉ほか 『日本の野鳥』 山と溪谷社

五百沢日丸 『野鳥ウォッチングガイド』 日本文芸社

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！